

Q

都市計画道路の整備計画は

A

周辺道路の交通を考慮し検討

齊藤 芳久 議員

質問一 都市計画道路は、高度成長期に決定されたが、経済が悪化した現在では施工が進んでいない。

ウ 川越鶴ヶ島線について。
エ 共栄鶴ヶ丘線について。

道路予定地の市民は不安を抱えており、また、道路予定地では開発が進んでおり、今後多くの問題が出ると思われる。都市計画道路の考え方について。

答弁一 ア(市長) 信号機設置等の交通安全対策を講じ、平成25年度の早い時期に開通したい。
イ 都市計画決定している道路が25路線、総延長で約41・7キロある。

市が整備する都市計画道路は19路線、総延長24・5キロで、整備率は65・2割である。優先度の高

い路線の整備は、周辺道路の交通事情の変化を考慮し検討していく。

ウ (仮称) 新川越越生線の国道407号バイパス以南に含まれ、県が事業主体となり、整備を行う。407号以北の都市計画決定の跡地に関連した具体的な話はない。
エ 共栄鶴ヶ丘線は、共栄一本松線から富士見通り線の区間を優先的に整備する。

◎**その他の質問** 一般道路の管理について

米飯給食の拡充と「弁当の日」

Q

更新施設は毎日の米飯給食も可能

A

川合 利枝 議員

質問一 給食の食べ残しについて。

ア 保育所、学校の過去3年間の1人当たりの量について。
イ 食べ残しが多い献立について。

ウ 現状に対する対応について。
エ 主食(米飯、パン、めん類)の回数について。

オ 米飯給食の回数増加について。
カ 保育所給食、学校給食に係る乾物や調味料等の購入先について。

キ 弁当の日について。
ク 給食の品目ごとに登録している業者から、購入している。

ケ 各学校ごとに協議してもらおう、働きかける。

コ 財源確保の取り組みについて

平成21年度の小学校は93校で14・2割、中学校は125校で16割である。鶴ヶ島東部保育所の場合、21年度の平均で2・2割である。

提供した献立の場合である。指導の積み重ねで食べ残しが減っていくよう努力する。週5回のうち米飯2・3回、パン1・9回、めん類0・8回である。現在は食器洗浄機の機能等から難しい。新学校給食センターでは、確実な洗浄機能を有した食器洗浄機等を設置予定なので、毎日の米飯にも対応できると考える。



子どもに人気の米飯給食